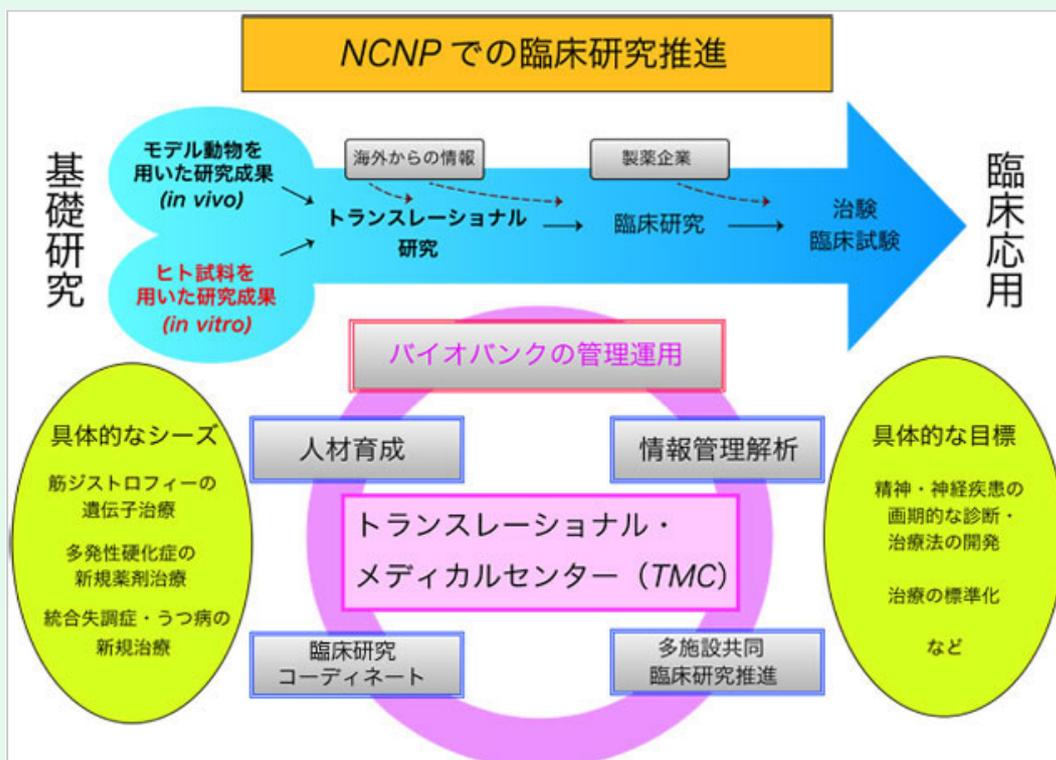


ナショナルセンター・バイオバンク構想とNCNPバイオバンク

国立精神・神経医療研究センターでは、精神・神経・筋・発達障害の病気の研究を行い、先端的な治療を開発して臨床に応用することを目指しています。病気の原因や成り立ちを調べる基礎研究においても、病気の診断や進行度などを調べるなど臨床研究においても、患者の皆様から提供していただいた検体を研究試料として使わせていただくことが必ず必要です。そのために、TMCの中にバイオリソース（生体試料）を専門に扱う部署を設置し、基礎研究にも、臨床研究にも役立つバイオバンクを構築しています。



このような活動は当センターばかりでなく、ナショナルセンター（NC）のすべてが行うべきものであるため、厚労省の支援を受けて6つのNCがそれぞれの特性を生かしたバイオバンクを有機的に活用して行う「6NCバイオバンクネットワーク（NCBN）事業」が昨年度から始まりました。国際医療研究センターに中央バンクを置き、まずは各NCが保有する試料のカタログ情報を今年度中には公開することを目標に活動しています。

当センターではこれまで主に稀少疾患の骨格筋、血液などのバイオリソースを中心に収集し研究に有効利用してまいりましたが、今回の6NCBN事業に関連させた活動の第一目標として、5大疾病に登録された精神疾患を取り上げ、当センター内に精神疾患バイオバンクを構築させる計画を進めています。具体的な計画については改めてご案内させていただく予定です。

バイオバンクの活動は、病院、TMC、研究所を一本の線で結ぶ重要な活動でありますので、皆様方のご支援、ご理解をいただきたくよろしくお願いたします。

(TMC副センター長 後藤雄一)